

「第57回北海道開発局空港技術研究会議」を開催しました

北海道開発局では、北海道内で空港整備を行う担当者の技術の研鑽と、道内・道外の空港を巡る最近の動向についての情報交換を目的として、「第57回北海道開発局空港技術研究会議」を10月10日（水）に札幌第1合同庁舎2階講堂にて開催しました。

会議の概要

平成30年10月10日(水)13:30~17:00 札幌第1合同庁舎 2階講堂
〔参加人数：100人(行政機関、空港関係者、建設・コンサルタント等)〕

<プログラム>

- ① 高松空港の今後の計画について
【高松空港株式会社】
内容：今年4月に駐車場や滑走路を含めた空港運営の移管を受け、空港施設の特性上、安全・安心について取り組むとともに、15年後の旅客数307万人達成を目標とし、地域ゲートウェイとして四国瀬戸内No.1の国際空港となることを目指す取組
- ② 当事者意見を取り入れたユニバーサルデザインに配慮した施設計画のあり方
【成田国際空港株式会社】
内容：ユニバーサルデザインに関する社会の動向や背景を踏まえ、施設改修に当たって、成田国際空港の現状及び当事者意見を取り入れた施設整備の事例紹介
- ③ 積雪寒冷地におけるコンクリート舗装の設計
【国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所】
内容：積雪寒冷地に適したコンクリート舗装の設計法を検討した結果報告
- ④ 釧路空港における滑走路端安全区域（RESA）の整備概要について
【釧路開発建設部 釧路港湾事務所】
内容：滑走路端安全区域（RESA）整備における現高盛土も含めた安定性を確保し、経済性を考慮した構造とするための検討及び整備概要報告

